

■2020 年度日本活断層学会 学会賞

【受賞者】片柳由明氏

【選考理由】

数値標高モデル (DEM) の解析ソフトである Simple DEM Viewer の作成による貢献

近年、数値標高モデル (DEM) はパソコンの高性能化や航空レーザ測量の普及などが急速に進み、等高線や陰影図にとどまらず、アナグリフや赤色立体地図など多様な地形表現を可視化されるようになってきている。片柳由明氏の開発した数値標高モデル (DEM) の解析ソフトである Simple DEM Viewer (以下 SDV) は、多様な地形表現が可能であるが、特にアナグリフの作成に長けており、従来の空中写真では抽出が難しかった長波長な変動地形や森林におおわれた地域の変動地形といった活断層に関する貴重な情報を見いだすことを可能とし、近年の変動地形研究に欠かせない情報源とした。片柳氏は SDV を独自に制作し、研究者の要望に細やかに対応し、SDV を無償で提供し続けている。その結果、陸上地形のみならず、海底地形でも広く利用され、日本活断層学会や関連学会の学術大会や会誌等でも、SDV を利用した研究が数多く発表されており、活断層研究の進展に重要な役割を果たしてきた。最近では、国の作成する活断層図の作成にも重要な判読資料として SDV で作成されたアナグリフやステレオ画像が利用されており、国家事業においても重要な役割を担っており、一般市民が直感的に活断層などの地形を理解するのを助けることにも貢献している。以上のとおり、SDV は近年の活断層研究の進展、地形の 3D 表現の普及に極めて重要な役割を果たしており、その作成者の片柳由明氏は日本活断層学会賞の授賞にふさわしいと判断した。